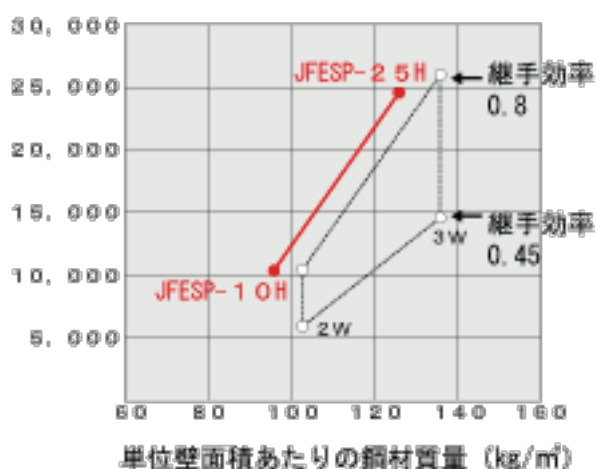


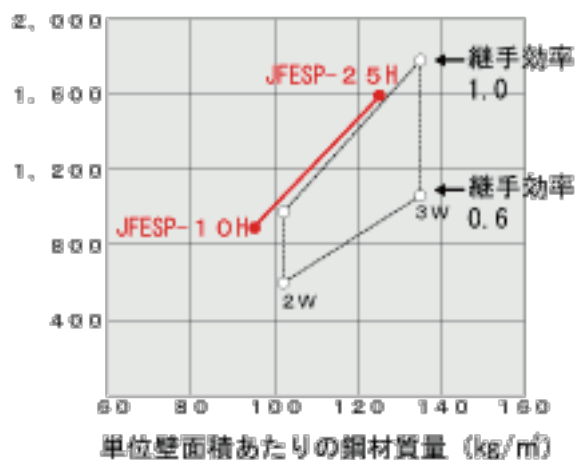
鋼材重量の低減

継手位置の壁体最外縁配置で、従来の鋼矢板で課題であった継手効率による断面性能低減が不要となり、かつ、薄肉大断面形状としたことにより、単位壁面積あたりの鋼材重量を低く抑えることができ、経済性の向上が可能になりました。広幅型(600mm)鋼矢板と比較した場合、単位壁面積あたりの鋼材重量を7~29%程度低減できます。

壁幅1mあたり断面二次モーメント (cm⁴/m)



壁幅1mあたり断面係数 (cm³/m)



工事費削減・工期短縮

継有効幅900mmの大断面ハット形状の採用により、施工延長あたりの施工枚数を少なく抑えることができ、工事費削減と工期短縮が可能となりました。例えば広幅型(600mm)鋼矢板と比較した場合、所定の施工延長あたりの施工枚数を2/3に低減できます。